

化学物質に関する地域懇談会（リスクコミュニケーション）実施結果

- 東洋ソフラン株式会社 三好工場 -

1 主催

愛知県、東洋ソフラン株式会社

2 協力機関

西加茂郡三好町、社団法人環境情報科学センター

3 開催日時

平成18年11月17日（火）午後2時から5時まで

4 開催場所

東洋ソフラン株式会社 三好工場

西加茂郡三好町大字打越字生賀山3番地

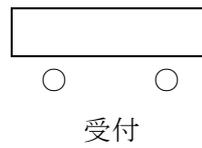
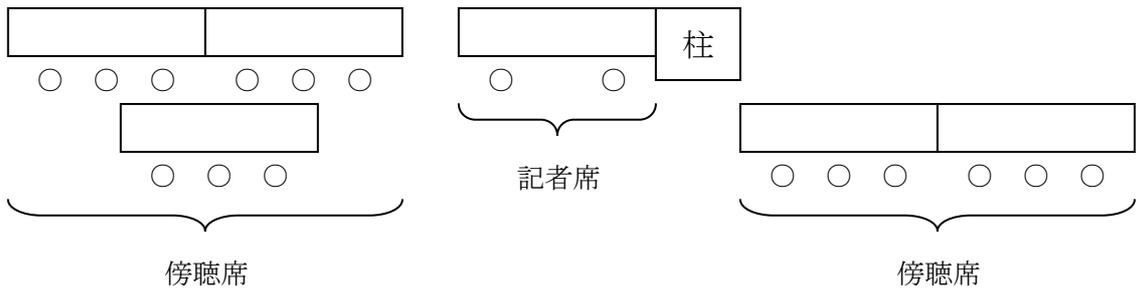
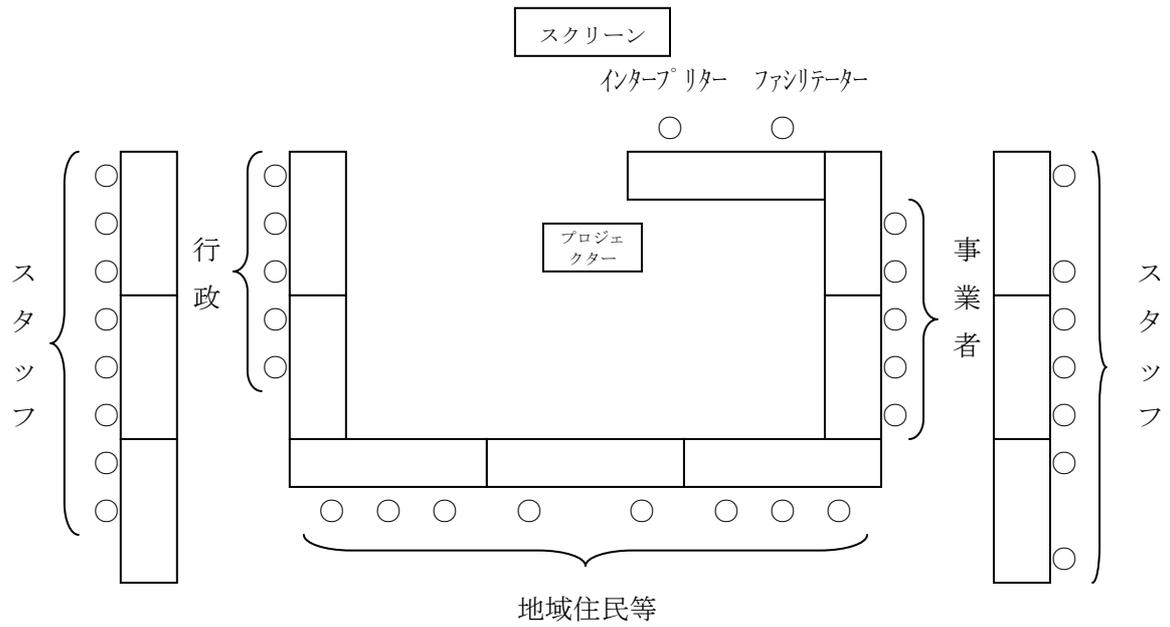
5 参加者

- ・ファシリテーター 千頭 聡 氏（日本福祉大学教授）
- ・インタプリター 山本倫久 氏（化学物質アドバイザー）
- ・意見交換参加者 18名
 - 地域住民等 9名（地元役員等5名、町議会議員2名、近隣事業者2名）
 - 事業者 5名
 - 行政 4名（三好町1名、三好消防署1名、豊田加茂事務所1名、県環境活動推進課1名）
- ・傍聴者 15名
 - 地域住民 6名
 - 事業者 5名
 - 行政 4名

6 配布資料

- ・次第
- ・化学物質のリスクとその管理について（インタプリター説明資料）
- ・東洋ソフラン株式会社に関する資料
- ・環境・品質・社会報告書2006 東洋ゴム工業株式会社
- ・化学物質アドバイザーのパンフレット
- ・P R T Rデータを読み解くための市民ガイドブック
- ・わたしたちの生活と化学物質（かんたん化学物質ガイドの小冊子）
- ・乗り物と化学物質（かんたん化学物質ガイドの小冊子）
- ・化学物質と環境について考えてみよう（パンフレット）

7 配席



8 プログラム

- | | |
|--|--------------------|
| ○ 豊田加茂事務所の司会により開会 | 1 : 5 7 |
| ○ 主催者あいさつ 愛知県豊田加茂事務所 環境保全課長
東洋ソフラン株式会社 社長 | 1 : 5 7
1 : 5 9 |
| ○ 司会からファシリテーター及びインタープリターの紹介
<進行を司会からファシリテーターに交代> | 2 : 0 1 |
| ○ ファシリテーターによるオリエンテーション及び参加者自己紹介 | 2 : 0 3 |
| ・オリエンテーション
パワーポイントを用いリスクコミュニケーション、今日の
参加者の立場、会議の進め方及びルールについて説明 | |
| ・自己紹介を兼ねたアイスブレイク
化学物質と聞いたイメージと今日期待していることを紙に
書いていただき自己紹介 | |
| ○ インタープリターから化学物質の影響の考え方について説明 | 2 : 2 8 |
| パワーポイント及び配布資料を用い、身近にある化学物質、
化学物質による環境リスク、P R T R制度、リスクコミュ
ニケーションについて説明 | |
| ○ 事業者から事業所概要及び環境への取組に関する説明 | 2 : 3 9 |
| パワーポイント及び配布資料を用い、環境への取組について
説明 | |
| ○ 事業所見学 | 3 : 1 0 |
| 3班に分かれて見学
(休憩) | |
| ○ 意見交換 | 4 : 1 5 |
| ファシリテーターの進行により意見のある方が挙手をして発言
する方法で意見交換を実施 | |
| ○ ファシリテーターによる総括 | 4 : 5 1 |
| インタープリターからの意見と取りまとめ
<進行をファシリテーターから司会に交代> | |
| ○ 閉会 | 4 : 5 6 |

05年度の排出・移動量の報告 (PRTR法)



PRTR法届けで物質の推移 (2002~05年)

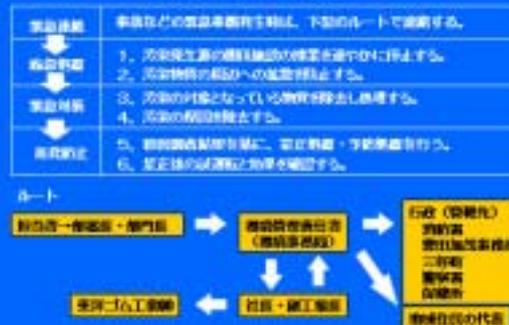


臭気 (化学物質濃度) の測定結果

測定結果 (06年3月)

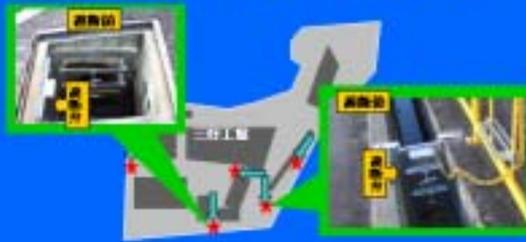


緊急時の対応体制

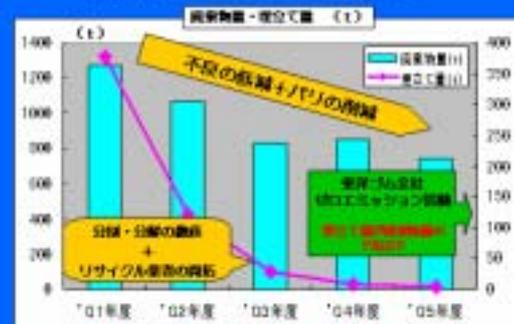


緊急時の対応訓練 ②

② 排水溝へ流れ込んだ油の流出防止訓練 (04/年実施)
- 排水溝の蓋を開き、油を吸み上げポンプで回収する訓練を実施しました。(高圧洗浄機から発生)



廃棄物・埋立て量の低減活動



10 意見交換の概要

(1) 原料タンク置場の地震対策について

(地域住民等) 原料タンク置場のコンクリートの防護柵を2重にすると何かあっても安心だという感じがした。

(行政) 消防法上は防油堤といい、通常150mm以上の鉄筋コンクリートでつくられている。容量はタンク内の110%以上が入るものでつくられることが法的に決められているため、タンク内のものは防油堤内に全部入ることとなる。また、震度5、6程度では壊れないという構造計算に消防法上ではなっている。

(2) 5Sマイマシシ・マイエリア宣言について

(地域住民等) 大変工場の中がきれいに管理されていると思った。従業員参画の意識付けとして5SMYエリア宣言というものが工場内に貼ってあったが、これはどんな主旨で、どのようなことを主に宣言されているのか。これを実際に所属長や本人がどのように管理フォローしているのか教えてほしい。

(事業者) 5Sは安全品質の基本と考え、これを徹底、向上させようと4～5年前から実施している。トップダウンでは限界があるため、従業員が安全に気持ちよく働くためには、みんなでよくしていく必要があり、一人一人のエリアを決めてきれいにする事としている。宣言文については各職場に任せているのでレベルの差はあると思う。各職場で今年はこれをやろうと決め実施し、チェックは我々が行い、年度末により職場を表彰している。

3) 自衛消防隊について

(地域住民等) 緊急の場合に自衛消防隊は、どれくらいで駆けつけることができるのか。

(事業者) 原液をこぼして漏えいした場合は、その場ですぐ対応することとしており、扱っている人は年1回教育を受けている。大きな地震や火災の場合は、従業員の安全のため、まず避難することとしており、年に2回訓練を行っている。一旦避難後、消防隊は消火班、救護班などに分かれ活動を行う。火災現場では、初期消火やケガ人の救出などの活動を行うが、それ以外の人は一旦集まってから活動を行います。当工場は危険物を取り扱うので、当然、消防法に決められた消火設備を設置しており、自火報・煙感知器・泡消火設備を備えています。

(4) 臭いについて

(地域住民等) 自分は体験していないが、住民の方から、夕方4時から4時半頃に場所の特定や長時間続く訳ではない何ともいえないにおいがすることがあると聞いたが、そのようなことがあるのかお尋ねしたい。

(事業者) 時間帯によって特殊な作業を行うということはやっていない。

(ファシリテーター) 使っている物質から想定した場合、臭いとしてはどのような臭いが出そうか。

(事業者) 臭いに関してはお話をお聞きするまで認識していなかったもので、改めて調査確認を実施します。

(5) 水溶性塗料の導入について

(地域住民等) 水溶性塗料を使用する予定はあるか。

(事業者) バンパーは新車用ではなくアフターマーケットなので、時期がズレるかもしれないが、検討課題と考えている。

(6) 隣接地の住宅建設に対する音、臭い対策について

(地域住民等) すぐ隣に60数戸の新しい住宅が建設される予定であり、音や臭いは基準値以下であると思うが、住む人にとっては基準値以下の音や臭いでも気になることもあると思う。このあたりの対策は考えているのか教えてほしい。

(事業者) 開発している不動産会社ともやりとりをして、緑地帯を広くとる計画に修正してもらった。臭いに関しては規制値では解決できない部分もあるので、臭いに関する把握に努めており、どう対応するかについて今年、来年にかけて検討し、できることはやっていきたいと考えている。

(7) リサイクルについて

(地域住民等) ほとんどのものがリサイクルされているようだが、ゴミ(埋立て処分)として捨てられるものはないのか。

(事業者) 埋立処分量は、東洋ゴム全体のゼロエミッション活動の中で廃棄物全体の1%以下にすることとし'04年に達成したが、埋立て処分の発生はある。今後の課題であり、できれば100%リサイクルとしたいが今は1%以下で発生している。

(8) 防災の立場からの感想

(行政) 30年程前ほどの工場もウレタンくずの切れ端が落ちていたり、塗料や油が床にこぼれていることがあったが、今はどこの工場へいってもそのようなことはなく、大変きれいになってきていると思う。昔は塗料をシンナーなどで薄めて使用しており、溶剤はそのまま大気に放出されていた、水性塗料であれば漏れても溶剤がないので、塗料としての環境汚染はあるが、溶剤としての環境汚染はないと私どもの立場では考えている。また、有機溶剤は火災危険があるが、水性であれば火災危険も下がる。工場の火災は昭和40年代50年代の前半に比べれば件数は減ってきている。

(9) 隣接地の住宅建設と地域コミュニケーションについて

(地域住民等) 基準値はクリアしていても、隣接地に住みだして5年もすれば段々声が大きくなって工場がやりにくくなるようなことになる、地域にとっても会社にとっても非常に不幸なことになるということを非常に心配しており、このあたりのこと

をどのように考えているのかということが本当に気になる。

(地域住民等) 県立の三好養護学校という学校があり、学校から半径200mは工場ができないという三好町のまちづくり利用条例というものがあり、この条例があるということを踏まえてこの問題を考えてもらわないといけない。

(ファシリテーター) この問題は、化学物質のことだけということではなく、役場も含めてこれからコミュニケーションをとっていただければと思う。

(10) 防災センターについて

(地域住民等) 防災センターの備蓄の部分を拝見させていただいたが、2Fはどのようなになっているのか。

(事業者) 2階は防災センターではなく、事務所になっている。

(地域住民等) 防災センターは、すごくしっかりしたものなので参考にさせていただきたいと思った。

(11) 懇談会の実施方法について

(地域住民等) つい先だって同じような会合を持ったが、その会合の時よりも随分活発な意見が出ているという感想を持った。実施方法など今後の参考にしたいと思った。

(12) 実際に工場内を見ることについて

(ファシリテーター) たくさんの意見をいただいた。見ることにより変わってくるものはあるのだろうか。地元の方で何かあるか。

(地域住民等) 三好全体の会社がソフランのようになっていただければものすごく安心だと感じた。今まではソフランで何を生産しているのかわからなかった。ソフランというから布団のクッションでもつくっているのかと思った。いろいろと今日勉強させていただいてしっかりやっていただいていることがわかった。

(13) ファシリテーターによる総括

(ファシリテーター) 今日は化学物質のこととしては水性塗料の話が出たが、化学物質アドバイザーとして何かあるか。

(インタープリター) 水性塗料については説明があったとおりで良いと思う。工場の安全基準などについては、会社としてはどういった根拠で安全であると考えているのか、住民の方に正しい情報を提供して説明することが必要であると思う。密にコミュニケーションをとることで、他にも日頃住民の方がどのようなことを心配しているのかを会社側が知ることができ、また住民の方もどのようなことに注目したらよいかを知ることができると思われる。5年たったら意見がでてくるという話もあったが、5年後までに小さな不満が積もって大きな不満やこじれた問題となってしまうと改善や解決が困難になる。日頃からコミュニケーションを通じて意見の交換をおこなっていると、早めに対応ができ、理解される余地も大きくなるのではないかと

と感じる。

今回のような意見交換会が一般的なものとなり、回数を重ねて継続しておこなわれていくようになるとよいと思う。

(ファシリテーター) まさに今言っていたとおりで、例えば、基準一つでも、行政は、法律の基準を満たしているか満たしていないかということが、非常に重要な判断基準であり、事業者の方も同じである。しかし、市民は、法律的な基準を満たしていても、ある意味違う価値判断を行う。法律上の基準と市民の受け止め方の判断基準とが違うということが判れば、ではその次どうすれば相互のコミュニケーションが取れるかが考えられる。もし、違うと言うことすらも気がつかなければ、企業から見たらきちんと対策を講じているのに、地元の方からは臭いという苦情が来て、困惑することになる。したがって、今回のような対話を継続的に積み重ねることが大事であると思う。東洋ソフランにとっては、このようなコミュニケーションの場は今回が初めてだったので、どんな意見がでるだろうかと心配されていたと思う。これをいい出発点として、化学物質をはじめ、コミュニケーションが取ればお互いに信頼関係も深まるのではないかと思う。

1.1 アンケート結果

(1) 事前アンケート

回答数及び回答者属性

属性	回答数
工場周辺自治会長・自治会役員	3
その他の工場周辺住民	3
地元議員	1
その他	3
合計	10

質問1 東洋ソフラン(株)三好工場について知っている情報（複数選択）

選択肢	回答数
具体的な事業内容や製造品	7
使用している化学物質	0
工場から排出される化学物質の種類と量	0
化学物質の排出抑制対策や管理体制	0
その他	1

質問2 東洋ソフラン(株)三好工場の化学物質管理について関心がある事項（複数選択）

選択肢	回答数
使用している化学物質の種類や量	7
使用している化学物質の有害性	4
化学物質の管理方法	5
従業員の健康管理	4
排出される化学物質の量と人への影響	4
排出される化学物質の量と周辺環境への影響	3
事故時の住民への連絡体制	6
防災対策（地震時、火災時など）	6
その他	0

質問3 地域懇談会に参加する目的

選択肢	回答数
事業内容や安全管理体制を具体的に知りたい	9
日頃の疑問や不安を聞いてほしい	1
お願いしたいことがある	1
その他	0

質問4 質問3で「日頃の疑問や不安を聞いてほしい」、「お願いしたいことがある」を選択された方の具体的事項（自由回答）

なし

質問5 地域懇談会に期待すること（複数選択）

選 択 肢	回答数
事業内容や安全管理体制の解りやすい説明	8
できるだけ多くの情報共有	2
疑問や不安に対する事業者の誠実な対応	3
住民の要求に対する具体的な対策方法の提示	2
その他	0

(2) 事後アンケート（地元住民等の意見）

回答数及び回答者属性

属 性	回答数
地元住民	6
その他	4
合 計	10

質問1 東洋ソフラン(株)三好工場の化学物質管理に対する理解

属 性	回答数
非常に深まった	10
あまり深まらなかった	0

質問2 プログラムの評価

プログラムの種類	選択肢	回答数
事業概要等の説明	よく理解できた	6
	だいたい理解できた	4
	理解できなかった	0
工場見学	よく理解できた	6
	だいたい理解できた	3
	理解できなかった	0
意見交換	よく理解できた	6
	だいたい理解できた	3
	理解できなかった	0

質問3 東洋ソフラン(株)三好工場についてもっと詳しく知りたい情報、関心がある情報（自由回答）

- バンパーは傷がついて当たり前で、傷がついたりへこんでも、ある程度まで修復できたり、塗料を塗らないなどの国際標準バンパーをつくったらどうか。
- 外国人従業員と地域住民との良好な関係
- においなど地元の皆さんの関心事

質問4 東洋ソフラン(株)三好工場の化学物質管理の取組に対する感想（自由回答）

- コンプライアンスは充分と思いましたが、法律の想定外のこともコスト上で可能な限り対策をお願いしたい。
- 非常によく管理されている。
- 工場内は整理され、非常にきれいで感心した。
- ベスト

質問5 地域懇談会の成果・感想（自由回答）

- 大変勉強になりました。三好のすべての会社が、ソフランのようになっていたらいいと思った。
- 貴重な体験ができた。
- ソフランの環境に対する取組みの姿勢がよくわかり安心した。
- 期待していた成果を得ることができた。

質問6 次回の地域懇談会への参加意欲

選択肢	回答数
是非参加したい	4
時間があれば参加したい	5
もう参加したくない	0

質問7 希望する地域懇談会の開催頻度

選択肢	回答数
年に数回	1
年に1回	5
数年に1回	3
問題が起こった時だけ	0

質問8 インタープリター（化学物質アドバイザー）からの説明内容

選択肢	回答数
わかりやすかった	6
概ねわかりやすかった	2
わかりにくかった	0

質問9 インタープリターからの説明でわかりにくかった点

選択肢	回答数
専門用語が多く言葉の意味が理解できなかった	0
話し方に親しみを感じられなかった	1
説明資料（スライド）がわかりにくかった	0
その他	0

質問10 インタープリター（化学物質アドバイザー）やファシリテーターの感想
（自由回答）

- インタープリター（化学物質アドバイザー）について
 - 便利・快適とリスクのバランス（秤の絵）は間違いだと思う。リスクは普遍的、限りなくゼロに近づけることが、化学物質を取り扱うにあたっての基本姿勢だと思う。
- ファシリテーター（司会進行役）について（自由回答）
 - とても良かった。
 - 親しみがあり良かったです。
 - 良い。
 - 進行がよかった。

1 2 感想・評価

(1) 東洋ソフラン株式会社

今回初めて、地域の方々に弊社の事業活動・環境保全活動の現地確認をしていただき、その内容についてのご意見を伺う事ができました。

専門家のファシリテーター・インタプリターご両名の円滑な運営により、地域代表、関係者（消防署、近隣事業者）の皆様より、貴重なご意見と弊社の活動についてのご理解をいただき、非常に有意義な懇談会でした。

ファシリテーターの方には、立場の異なる意見交換者の発言をきちんと整理し、1つずつの話題の討議結果をまとめ、全員の理解を得ながら進めていただき、また、インタプリターの方には、理解し難い化学物質リスク（有害性の程度×暴露量）について具体例を引用して判り易く説明していただきました。

地域代表の方々の質問では、防火管理（緊急時の連絡、対応）や臭気について、また、近い将来、隣接する土地に計画されている住宅建設の話題などが挙がりました。

最後に地域代表の方より、「この様な取組みの広がりが地域環境を良くする事に繋がるのでは」とのご意見をいただきました。

初めての試みで「百聞は一見にしかず」の言葉通り、工場見学に時間をとり理解を深めていただいた一方、もう少し意見交換会に時間をとれば、より多くの話題の討議ができたのではないかと反省しました。

今日までの弊社と地域との信頼関係を、更に深いものにする為にコミュニケーションの必要性と意義を強く感じました。

次の機会には、今回の経験をいかした活動を実施したいと考えています。

(2) 三好町

今回三好町内で初めて「化学物質に関する地域懇談会」が東洋ソフラン株式会社三好工場にて開催されました。

今回のリスクコミュニケーションでは、ファシリテーター、インタプリターという外部有識者の方々を中心に意見交換が進められました。

今回のテーマである「化学物質」というと、一般的には聞きなれない言葉であり、職業柄どちらかというとマイナスのイメージが強く、大気への汚染とか水質への汚濁等々考えてしまいます。参加された意見交換者の皆さんも困惑されていたと思います。

会議に先立ち、ファシリテーターより参加者に対して、「化学物質」から何をイメージされますか、という質問がありました。参加者からは様々な製品とか危険、怖いもの等々意見が出されました。その後アドバイザーにより専門性を要する化学物質の内容について説明があり、工場、参加者共に理解が深まったと感じました。そうした中でファシリテーターにより緊張した場の雰囲気や和らげ、うまく意見を引き出し、活発な意見交換、議論がされました。

会社側の説明に対し、外部有識者が中立的な立場で補足説明等されると、参加者は大きな安心感を受けると思います。

会議も時間どおり順調に進行しました。今後も、地域全体で化学物質の適正管理と排出抑制に取り組んでいくために、非常に有意義な会議であったと思います。

(3) ファシリテーター

今回のリスク・コミュニケーションは、意見交換参加者、東洋ソフランの社員、行政、インタープリターと環境情報科学センターといった関係者の協力と連携のもとに、円滑に進めることができました。ファシリテーターとして、まず御礼申し上げます。

まず初めに、化学物質についてのイメージを全員にお尋ねしました。ポジティブなものからネガティブなものまで、多様なイメージがあげられ、そのこと自体が、リスク・コミュニケーションを図っていくことの重要性を教えてくれるものでした。工場見学は3班に別れ、ビデオでの紹介も入れながら、わかりやすい説明がなされていました。

また、東洋ソフランは、自動車用のシートやバンパーの製造を手がける、典型的な対企業向け製造・販売活動を行う企業です。そのため、地域住民や個人の消費者などのお付き合いが少ない企業です。その意味で、今回のリスク・コミュニケーションは、企業にとっても新しいチャレンジだったと思いますが、参加者との間で適切なコミュニケーションが取れていたと思います。

今回、地元町議会議員が2名参加されました。議会もリスク・コミュニケーションにおいては大切なステークホルダー（広義の利害関係者）と考えられますし、議員が参加者の一人として議論の場に加わることには大きな意味があると思います。一方で、今回は、愛知県の担当者を除く意見交換参加者全員が男性でした。地元の区の役職者や地主組合の代表などを選ばれたので、結果的に男性だけになってしまったわけですが、化学物質に対する意識や関心は、年代や性別によっても大きく異なっていくことが考えられます。次年度以降も、リスク・コミュニケーションを継続していくことができる場合には、女性や青年の参加者も含まれるようにすれば、さらに幅広いコミュニケーションが可能になると考えます。

(4) インタープリター

今回行われた地域懇談会は事業者にとっては初めての取り組みということもあって、開会時にはやや緊張した面持ちの参加者が多い様子でしたが、会が進行して意見交換を行う際には良好なコミュニケーションがとりやすいうち解けた雰囲気となっていたように感じました。

化学物質アドバイザーとしては、懇談会の冒頭で化学物質のリスクとその管理について解説することで、参加者の化学物質のリスクに対する考え方や概念についての理解促進に一定の役割を果たすことができたのではないかと考えています。また、簡単にではありましたが、会場で配布した環境省が発行している資料「PRTR データを読み解くための市民ガイドブック」「かんたん化学物質ガイド」などを紹介しました。懇談会後においても、さまざまな疑問を解決するため、より理解を深めるための資料として活用し

ていただければと思います。

意見交換の場では、住民から普段から気になっていることや工場見学を含む事業説明で気になったことについて多くの質問や発言があり、それぞれの立場から活発な意見のやりとりがなされる有意義な時間であったと感じます。多くの事項について住民が理解できる回答や解説がありましたが、特定時間に感じられるにたいの問題や工場隣接地の住宅地開発地区への対応といった、次回以降に引き続いて討議・検討していくべき課題を見いだすことができたことは意義深いことであると思います。今回のような地域懇談会が今後も継続して行われることで、さらにお互いの理解が深まり、より深い信頼関係が構築されていくことが期待されます。

地域懇談会による対話・リスクコミュニケーションを通じて、この地域で住む人や働くすべての人にとって、いまよりさらに住み心地が良い、安心して生活できる地域が醸成されていくことを願っております。

(5) 愛知県

リスクコミュニケーションは、今までのような行政や事業者側からの一方的な情報や見解、方針等を伝えることによって合意形成を図るのでは地域住民等の不安の解消や納得につながらないことから、関係者が相互に情報を要求、提供、説明し合い、意見交換を行って関係者全体が問題や行為に対して理解と信頼のレベルを上げてリスク低減を図ることが目的とされています。

しかしながら、このようなリスクコミュニケーションの事例はまだまだ少なく、今回の東洋ソフラン株式会社におかれても、当事務所管内で初めて実施されたこともありいろいろ御苦労されましたが、当日は第一回とは思えないほど活発な意見交換がなされ、参加者も「化学物質に対する理解が深まり、安心した」、「今まで行っていた地域懇談会を見直す必要性を感じた」といった感想が述べられる等、十分目的を達成したと思います。

今回の開催を通じてリスクコミュニケーションの有用性を再認識するとともに、東洋ソフラン株式会社においては今後も継続して実施され、かつ、他の事業所にも広がるよう、支援をしていきたいと考えております。